

学齢期のスポーツ参画経験と成人期以降の直接観戦行動の関係
- スポーツ観戦経験と対象種目の実施経験間の持ち越し効果の比較 -

Association of Sports Participation at school age with Sports Spectating Behavior in Adulthood:
Comparing Carry-over Effects between Spectating Experience and Playing experience of the sport.

菅原尚子

(一社)日本バレーボールリーグ機構

Shoko Sugawara

Japan Volleyball League Organization -V.LEAGUE-

キーワード: 直接観戦行動, 持ち越し効果, 実施経験, 直接観戦経験

Key words: spectating behavior, carry-over effect, playing experience, spectating experience

【抄録】

本研究では、直接観戦行動の持ち越し効果について、学齢期に対象種目の実施経験が有る群よりも対象リーグの直接観戦経験が有る群の方が、成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率が高い傾向が示されたことを背景に、学齢期における直接観戦対象リーグとの同一性、または実施経験対象種目との同一性の有無によって、成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率に異なる傾向がみられるかを確認した。対象リーグとは異なるリーグの直接観戦経験有り群で高い場合は、観戦環境の整備において先行している他リーグとの連携が、対象リーグと同一種目の実施経験が有る群で、成人期以降の直接観戦行動率または意向保有率が高い場合は、競技者データを保有する競技団体との連携が有効であると考えられ、顧客アプローチ手段の選択にあたり両者の識別は必要であると考えた。

検証にあたり学齢期の実施経験または直接観戦経験に関する分類と、現在の直接観戦行動をクロス集計し、 χ^2 検定および残差分析による有意差検定を行った。また χ^2 検定の結果を補完するため、学齢期の各種経験と現在の直接観戦行動間の順位相関係数を算出し、Z 変換による相関係数の差の検定とボンフェローニ法による多重比較を行った。

検証の結果、一部リーグを除き「学齢期の直接観戦経験(対象リーグ)」>「学齢期の実施経験(対象種目)」>「学齢期の直接観戦経験(他リーグ)」の順に、直接観戦行動の変容ステージとの相関が有意に高い傾向が確認され、観戦環境の整備途上にあり学齢期の直接観戦経験者が少ないスポーツ団体にとっては、学齢期に対象種目の実施経験のある群が集客時のターゲットとして有効である可能性が示された。種目数による分析からは実施工動のみならず直接観戦行動においても単一種目型である傾向が確認され、種目ごとに独立した観戦者ターゲットが存在することが推察される。

スポーツ科学研究, 16, 62-78, 2019年, 受付日:2019年4月1日, 受理日:2019年12月25日

連絡先:菅原尚子 104-0033 東京都中央区新川 2-1-9 石川ビル 4階

s-sugawara@vleague.or.jp